



～バンダイこどもアンケートレポート Vol.29

## 「お子様に見せたいなつかしのアニメは何ですか？」

キーワードは「感動」「自然」「優しさ」

この調査は雑誌誌上で当社が行っている、アンケート付きプレゼント企画への回答をまとめたものです。保護者を対象としたこどもに関する設問で、月1回の調査を行っています。質問内容は玩具に限定することなく、広い視野からこどもたちの生活に密着した生の声をまとめ、現代のこどもたちの実態をバンダイ流に解きあかしていこうと考えています。

【調査概要】

調査方法：雑誌広告でのアンケート付プレゼント企画によりハガキで募集

実施時期：1997年8月

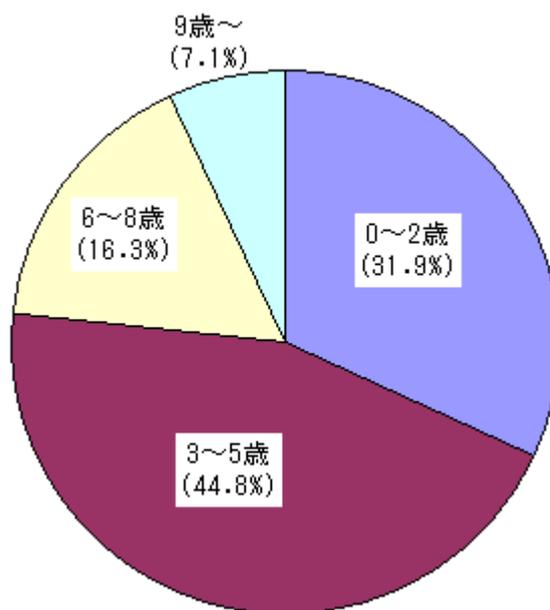
質問内容：お子さまに見せたいアニメは何ですか

有効回答数：526人

男女総計 526人

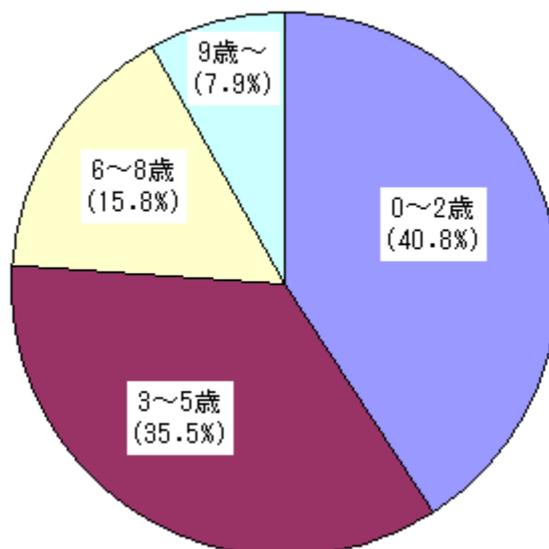
★男児の母親★

年齢内訳	0～2歳	104人
	3～5歳	146人
	6～8歳	53人
	9歳～	23人
	計	326人



★女兒の母親★

年齢内訳	0～2歳	108人
	3～5歳	94人
	6～8歳	42人
	9歳～	21人
	計	265人



※男児の母親と女兒の母親は一部重複あり

## <アンケート結果>

### ★男児に見せたいなつかしのアニメ

(303 件中／複数回答含む)

1	アルプスの少女ハイジ	12.5%
2	フランダースの犬	8.9%
3	みなしごハッチ	5.3%
4	ジャングル大帝	5.0%
5	鉄腕アトム	3.9%
	タイムボカンシリーズ	3.9%
	秘密戦隊ゴレンジャー	3.9%
8	ムーミン	3.2%
9	科学忍者隊ガッチャマン	2.8%
10	デビルマン	2.5%
	海のトリトン	2.5%
13	いなかっぺ大将	2.1%
	ハクシオン大魔王	2.1%
	オバケのQ太郎	2.1%

### ★女兒に見せたいなつかしのアニメ

(254 件中／複数回答含む)

1	アルプスの少女ハイジ	30.0%
2	キャンディ・キャンディ	11.4%
3	フランダースの犬	10.0%
4	ふしぎなメルモ	5.0%
5	ひみつのアッコちゃん	4.1%
6	みなしごハッチ	3.6%
	魔法使いサリー	3.6%
8	花の子ルンルン	2.7%
9	リボンの騎士	2.3%
	アタック No.1	2.3%
	オバケのQ太郎	2.3%
13	ジャングル大帝	1.8%
	海のトリトン	1.8%
	鉄腕アトム	1.8%

### ★感動、自然、優しさで「アルプスの少女ハイジ」が男女とも第1位に

こどもに見せたいアニメは男児、女兒とも「アルプスの少女ハイジ」がトップで、特に女兒では3分の1近くが名前をあげている。

見せたい理由は「こどもにも感動を伝えたいから」「自然の大切さを描いているから」「優しい子になってほしいから」で、「フランダースの犬」「ジャングル大帝」「海のトリトン」も同様の理由で選ばれている。「感動」「自然」「優しさ」は、こどもに見せたいアニメを選ぶときのキーワードになっているようで、これらのアニメを見ることで情操教育の助けになるという考えもあるようだ。逆に、最近のアニメについては「残酷なシーンがある」「夢がない」などの意見も同時に見られた。

### ★男児とアクション、女兒は魔法もの

男児と女兒では2位以下に若干の違いが見られた。

やはり男児はアクションや戦闘シーンのある勇ましいもの、女兒は魔法ものなど可愛らしいものが選ばれ、男女を分けて考えてはいるようだ。しかし、母親自身もこども時代に男児向けアニメを熱心に見ていたこともうかがえる。

回答と同時に上位にあげられた作品の再放送希望も非常に多く見られた。地方によっては再放送をしている場合もあるため、夏休みなどの旅行や帰省でなつかしのアニメが見られることを楽しみにしている家族もあった。

### ★そのアニメを見せたい理由ベスト3

(そのアニメを見せたい理由を書いているものの中から代表的なものをピックアップした。)

「アルプスの少女ハイジ」 \* 自分が感動したのでこどもにも感動を伝えたいから  
\* 自然の大切さが描かれているから  
\* 優しい子になってほしいから

「フランダースの犬」 \* 優しい子になってほしいから  
\* 自分が感動したのでこどもにも感動を伝えたいから  
\* 命の大切さを学んでほしいから

「キャンディ・キャンディ」 \* 明るく強い子になってほしいから  
\* 自分が好きだったから  
\* 絵がかawaiiから

「みなしごハッチ」 \* ストーリーがいいから  
\* 親子の愛や友情が描かれているから  
\* 優しい子になってほしいから

「ジャングル大帝」 \* 大自然と動物達のドラマを見せたいから  
\* 主人公からたくましさを学んでほしいから  
\* 命の大切さを知ってほしいから

「ふしぎなメルモ」 \* 夢があるから  
\* ストーリーがおもしろいから  
\* 身体の仕組みを教えてくれるから

「タイムボカンシリーズ」 \* ギャグがわかりやすくおもしろいから  
\* 夢があって創造心が育ちそうだから  
\* 正義が描かれているから

「ひみつのアッコちゃん」 \* 夢があるから  
\* 優しさが描かれているから  
\* 変身がおもしろいから

「鉄腕アトム」 \* 夢があるから  
\* 絵がかawaiiから  
\* こどもがロボット好きだから

「秘密戦隊ゴレンジャー」 \* 自分が好きだったから (理由のすべてが同一回答)

「魔法使いサリー」 \* 夢があるから  
\* テーマソングが好きだから  
\* 主人公が好き、ほのぼのしているから

「リボンの騎士」 \* 主人公がかっこよかったから  
\* 自分が好きだったから

「海のトリトン」 \* 自分が好きだったから  
\* 強い子になってほしいから  
\* 環境をテーマにしているから

※ このアンケートレポートに関して「子ども調査研究所・渡部 尚美」さんから以下のコメントをいただいております。

#### ■こどもに見せたいなつかしのアニメ

今回は、どのアニメということよりも、こうした質問にこたえられる人々がこどもの親になる時代になっていることに注目したいと思います。

1954年にわが国のテレビ放送が開始されました。1959年には当時の皇太子妃になる美智子様の御成婚の人気によってテレビの登録台数が200万台を越え、1963年には国産初のテレビアニメ「鉄腕アトム」の放送が始まりました。つまり、テレビの初期の大スター、プロレスラー力道山に熱狂した少年や少女たちは、現在では既に50歳を越え、「鉄腕アトム」などの初期のテレビアニメに夢中になった少年少女たちも40歳を越える年齢になっているのです。つまり、現在40歳以下の人々は＜親子揃ってアニメ育ち＞＜同じ文化で育った親子＞とすることができます。

1960年代周辺の文化史には「少年サンデー・マガジン創刊」(1959)、「少女フレンド創刊」(1961)、「コカコーラ発売開始」(1960)、「ダッコちゃんブーム」(1960)、「ダイエー 神戸に開店」(1961)、「ビタミン剤売れる」(1964)、「ウルトラマン・怪獣ブーム」(1966)、「プラモデル(サンダーバード)ブーム」(1967)、「少年ジャンプ創刊」(1968)、「レトルト食品(ボンカレー)発売」(1968)、「マクドナルド1号店開店」(1971)とあります。

これをみていると、アニメだけでなく、こどもたちの情報環境、娯楽環境、食文化、消費文化などの今日に至る基礎が、およそ30年前に形成され、そのままほぼ同質な環境(ファミコン等のコンピュータ機器をのぞけば)の中でこどもたちは大人になり、今日のこどもたちの親になっているのです。

こうした＜同質感覚＞の親子というのは、実は近代日本では、初めて誕生する親子なのです。それ以前の親子は、今ほど豊かでなかったせいもあって、親が「こどものために」「親は犠牲になっても」という姿勢でしたが、最近では「親は犠牲になりたくない」「親の趣味にこどもを巻き込む」などの＜人生を楽しむ＞親に変質してきています。だからこそ親子でアニメ、マンガ、ゲーム、ファーストフード、スポーツなどを、ともに楽しむ＜共遊親子＞が登場しているのでしょう。この親子の＜共遊感覚＞は、今後の日本の生活や流行を大きく変えていく原動力になるのではないかと考えています。